

令和7（2025）年度

学習ナビ

（学習の手引き）



丹波篠山市立西紀中学校

授業科目名	国語	対象	3 年生
担当教員	西田 さよ子	受講教室	3 A 教室
週当たり時数	3（年間 105 時間）		
到達目標			
(1) 国語に関心をもち、進んで自己の学びに活かそうとする (2) 言語について正しく理解し、コミュニケーションのための技能を身につけている (3) 課題解決するために、内容を理解し、自分の考えをまとめて話したり、適切に文章に書いたりすることができる			
授業方法	講義、対話等の体験活動、表現活動		
○講義：授業者が板書、パワーポイント、映像など様々な資料を用いて説明する ○体験・表現：話し合い活動や作文、日々の振り返りコメント（自己評価カード）など			
授業計画・内容			
1 学期	2 学期	3 学期	
○生命は ○世界への入り口 ○俳句の読み方、味わい方 句会を開こう ○形 ○間違えやすい敬語 ○間違えやすい言葉 ○絶滅の意味 ○何のために働くのか ○百科事典少女・風の唄 ○和語、漢語、外来語 ○書写（硬筆の楷書、行書）	○連語、慣用句 ○受け取る「利他」 ○万葉集・古今（新古今）和歌集 ○奥の細道 ○論語 ○故郷 ○条件スピーチ ○合意形成を目指す話し合い ○四字熟語 ○熟語の構成・熟字訓 ○本との付き合い方	○書写（硬筆の楷書、行書） ○文法のまとめ ○いつものように新聞が届いた ○レモン哀歌、生ましめんかな ○国際社会と私たち ○好きの地平線を探して	
休業中	・文法ワーク、国語のワーク、入試模擬問題、合格チェック・読書感想文、人権作文		
みなさんへのメッセージ	国語は、すべての学びの基本です。どの教科も日本語（国語）の力が必要です。そして、国語の力＝「読む・話す・聞く・書く・言語の知識」の力です。国語の力がつくと、「学ぶ力が向上した」ことになります。他の教科やこれからの多くの学びに役立つよう、進んで取り組んでいきましょう。		
評価方法			
知識、技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト（5 回） ・書写作品 ・小テスト（漢字、文法など）	・定期テスト（5 回） ・小作文 ・読書感想文や人権作文など ・話し合い活動、スピーチ	・授業での意見発表や取り組み ・漢字ノート ・自主学习ノート ・提出物	
授業・評価についての留意事項	国語の力は生活の中で、多くの人と『言葉』でつながっていける力のことを言います。そのために、多くの人に伝わる正しい言葉を習得し、使えることが必要です。積極的に、多くの文章・語句に触れ、自分の考えをもち、その意見や考えを書いたり、話したり、交流できるように学んでいきます。		
使用教材	教科書（東京書籍）、つまづかない文法ワーク、国語の学習、合格チェック 国語活用資料集、入試模擬問題、ノート、漢字ノート、		

授業科目名	社会	対象	3 年生
担当教員	森村 圭介	受講教室	3 A 教室
週当たり時数	4（年間 140 時間）		
到達目標			
（1）我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 （2）社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 （3）社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する。			
○演習：地形図や年表、図表をもとに、その現象の意味を考察する。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○歴史分野 ・近代国家へのあゆみ ・立憲制国家の成立 ・日清・日露戦争と東アジアの動き ・近代日本の社会と文化 ・第一次世界大戦と戦後の世界 ・大正デモクラシーの時代 ・世界恐慌と中国との戦争 ・第 2 次世界大戦と日本 ・平和と民主化への動き ・国際化する世界と日本 ○公民分野 ・私たちが生きる現代社会の特徴 ・現代社会の文化と私たち ・現代社会をとらえる見方や考え方	○公民分野 ・法に基づく政治と日本国憲法 ・日本国憲法と基本的人権 ・日本の平和主義 ・民主政治と政治参加 ・暮らしをささえる地方自治 ・国の政治のしくみ ・消費生活と経済のしくみ ・生産の場としての企業 ・金融のしくみとお金の価値	○公民分野 ・財政と国民の福祉 ・国際社会の課題と私たちの取り組み ・3 年間の復習	
休業中	・ワーク（基礎基本の定着）、レポート課題（税の作文等）		
みなさんへのメッセージ	3 年生は、近現代史と公民の内容が中心です。歴史の中でも特に難しい範囲になるので、授業後にコツコツとワークなどを解きながら重要語句の定着をはかっていきましょう。また、1・2 年生で学習した地理の学習内容に触れる機会が減るので、長期休業などを使って計画的に振り返っていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識、技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト ・ワークシート（振り返り） ・小テスト	・定期テスト ・ワークシート（振り返り） ・レポート課題	・定期テスト ・学習に向かう姿勢、提出物等 ・ワークシート（振り返り） ・小テスト	
授業・評価についての留意事項	次の授業に向けて予習課題に取り組み、目標や課題意識を持って授業に臨みましょう。また、授業中に出された課題などは確実にやり、提出しましょう。最初から答えを見たり、友だちに見せてもらったりするのではなく、自分の力で取り組むことで力が付きます。テストだけでなく、日々の授業プリントにも丁寧に取り組みましょう。		
使用教材	教科書【歴史・公民】（日本文教出版）、歴史の自主学习【歴史 2・3】（新学社） 公民の学習（浜島書店）、資料集 新しい公民（浜島書店）授業プリント、ファイル、地図帳（帝国書院）		

授業科目名	数学	対象	3 年生
担当教員	西畑 魁人・木村 みどり	受講教室	3 A 教室・学習室 B
週当たり時数	4（年間 140 時間）		
到達目標			
（1）数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 （2）数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 （3）数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、ICT 機器を用い映像など様々な資料を用いて説明する。			
○演習：定期的にワークの提出を求め、毎時間 5 分ドリルを行い、演習問題に取り組む。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○式の展開と因数分解 ・式の展開と因数分解 ・式の計算の利用 ○平方根 ・平方根 ・根号をふくむ式の計算 ○二次方程式、二次関数 ・二次方程式とその利用 ・関数とグラフ	○二次関数の利用 ・値の変化 ・いろいろな事象と関数 ○図形と相似 ・図形と相似 ・平行線と線分の比 ・相似な図形の計量 ・相似の利用 ○円の性質 ・円周角と中心角 ・円の性質と利用	○三平方の定理 ・三平方の定理とその利用 ○標本調査 ・標本調査 ○3 年間の総復習・入試対策	
休業中	・数学の学習ワーク、3 年間の総まとめワーク、プリント		
みなさんへのメッセージ	計算問題は、量をたくさんこなし、自分のつまずきポイントを知り、ケアレスミスをなくしていきましょう。図形や関数などの総合問題は、まず問題文の意味を理解し、今まで学んだ事柄をどのように用いるか考え、じっくり粘り強く解答を導いていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・ノート、ワーク ・プリント ・定期テスト ・小テスト	・ノート、ワーク ・プリント ・定期テスト ・小テスト	・発表、授業中の様子 ・ノート・ワーク ・プリント ・定期テスト	
授業・評価についての留意事項	目標や課題意識を持って授業に臨もう。その日やった問題はその日のうちにマスターしましょう。わからないときは、どこがわからないのかを明確にし、質問しよう。出された宿題は必ずしましょう。また、宿題だけではなくワークなども活用しましょう。		
使用教材	未来へ広がる数学（啓林館）、数学の問題ノート（新学社）、ぎゅぎゅっと総まとめ（明治図書）、パスポート入試対策プリント（五ツ木書房）、ノート、ファイル		

授業科目名	理科	対象	3 年生
担当教員	岸本 純平	受講教室	理科室
週当たり時数	4（年間 1 4 0 時間）		
到達目標			
(1) 自然現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。			
(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身につける。			
(3) 自然現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする力を身につける。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する			
○演習：自然現象の再現実験及び観察を行う			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○生命の連続性 ・生物の成長とふえ方 ・遺伝の規則性と遺伝子 ○化学変化とイオン ・水溶液とイオン ・酸・アルカリと塩 ○運動とエネルギー ・力のつり合い ・物体の運動	○運動とエネルギー ・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり ・エネルギー資源とその利用 ○宇宙の中の地球 ・地球とその外側の世界 ・太陽と恒星の動き ・月と金星の動きと見え方 ○自然と人間 ・自然界のつながり ・人間と環境 ・自然が人間の生活に及ぼす影響	○自然と人間 ・科学技術と人間 ・科学技術の利用と環境保全 ○入試対策（復習を含む）	
休業中	・ワーク＆自主学习→入試対策 ・自由研究（夏）→科学的思考力の育成		
みなさんへのメッセージ	自然科学とは何か？私たちの身の回りで起きる現象の理由を考えることです。中学校の間には4つの領域を1つの教科として学習します。それぞれの視点で得られた知見をもとに、自然現象について考えていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
自然事象への知識、実験技能	科学的思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト（5回） ・小テスト（不定期） ・実験レポート	・実験レポート ・ディスカッション課題 ・定期テスト（5回）	・授業での意見発表や態度 ・授業の振り返り ・授業のノート記入 ・理科自学の取り組み	
授業・評価についての留意事項	授業では予習課題を設け、予習していることを前提に授業を進める。また、定期的にワーク等の課題を行い、提出を求め、学習内容の定着を確認する。毎時の授業のめあてに対する振り返りを蓄積し、評価に反映する。		
使用教材	未来へ広がるサイエンス3（啓林館）、新理科問題集（あかつき）、毎日の復習（正進社）、理科ノート（新学社）、小テスト（明治図書）、入試対策ワーク（各自選定）他		

授業科目名	音楽	対象	3 年生
担当教員	秋元 麻里	受講教室	音楽室
週当たり時数	1（年間 3 5 時間）		
到達目標			
(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聞けることができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			
授業方法	講義、実技、鑑賞、グループワーク		
○講義：授業者が板書、スライド、映像、音源など様々な資料を用いて説明する ○実技：歌唱、器楽等の練習、演奏を行う。音楽を鑑賞し、特徴や曲想を感じ取る。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期		2 学期	3 学期
○オリエンテーション ○歌唱 ・花 ・花の街 ・早春譜 ・校歌 ○鑑賞 ・曲の背景を知り、名曲を味わう。 ・ブルタバ ○音楽を形作っている要素 ・音楽の形式・音名・記号		○歌唱 ・混声 3 部合唱曲 ○器楽 「ギター」コード ○鑑賞 ・雅楽 平調「越天楽」 ・能 ○創作 ・リズムアンサンブル	○鑑賞 ・ポピュラー音楽 ・音楽史 ○歌唱 ・混声 3 部合唱曲 ○著作権
休業中	音楽をたくさん聴こう 学習課題はなし		
みなさんへのメッセージ	・音楽ではただ歌うだけではなく、音楽の生まれた背景を知り、感情豊かに歌ったり、表現する方法を学びます。また、作曲者の意図や思いに迫り、音楽の良さや美しさを味わって聴いたりします。次の授業に向けて予習や復習に取り組み、目標を持って授業に臨みましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能		思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力
・定期テスト（3 回） ・実技テスト ・ワークシート・創作課題		・ワークシート・創作課題 ・実技テスト ・定期テスト（3 回）	・授業での意見発表や態度 ・ワークシート・創作課題 ・定期テスト（3 回）
授業・評価についての留意事項	授業では歌唱や器楽における演奏の基礎と実技、その他鑑賞、創作について学習する。定期テストや実技テスト以外に、授業の中で用いるワークシートを評価（観点別）に加える。また、練習中の姿勢や技能表現等も評価に加える。実技や鑑賞等、その時間のみ実施のものも多いため、欠席者は授業者に必ず授業内容を確認すること。		
使用教材	中学生の音楽 2.3 の下、中学生の器楽（教育芸術社） ワークシート（授業で配布）		

授業科目名	美術	対象	3年生
-------	----	----	-----

担当教員	村部 京子	受講教室	美術室
週当たり時数	1（年間35時間）		
到達目標			
（1）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。 （2）自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようになる。 （3）主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。			
授業方法	講義、実技、鑑賞、グループワーク		
○講義：授業者が板書、タブレット、映像、実演など様々な資料を用いて説明する ○実技：美術に関する表現活動及び鑑賞を行う			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期		2 学期	
○オリエンテーション ○自画像を描く ○いろいろな技法 ○想像の世界を描く ○鑑賞 ・シュルレアリズム		○西洋の美術 ○ルネッサンスから印象派まで ○鉛筆で描く ○鑑賞・レオナルド・ダビンチ	
		3 学期	
		○和の美術 ・和の文様 ・造形 ガラス工芸 ○鑑賞 ・仏像の美	
休業中	ポスター課題、美術に親しむ		
みなさんへのメッセージ	美術では、作品を作るための道具の使い方や表現方法について学びます。また、作品を鑑賞して作者の思いや意図を感じ取り、美術の良さや美しさを感じ取る活動を行います。美術に明確な「答え」はないので自由に自分の思いを表現しましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
表現及び鑑賞の知識、技能		美術的思考・判断・表現力	
・定期テスト（3回） ・作品、ワークシート		・定期テスト（3回） ・作品、ワークシート	
		主体的に学習に取り組む力	
		・定期テスト（3回） ・作品、ワークシート ・授業での意見発表や態度	
授業・評価についての留意事項	定期テスト、完成作品、ワークシート、授業態度(作品の期日を守る、授業に取り組む姿勢など)から総合的に判断する。		
使用教材	美術2・3上（日本文教出版）、美術2・3下(日本文教出版) 美術資料・兵庫県の美術（秀学社）、ワークシート		

授業科目名	保健体育科	対象	3 年生
担当教員	足立 良輔	受講教室	運動場・体育館・プール・教室
週当たり時数	3（年間１０５時間）		
到達目標			
(１) 運動及び健康・安全について、理論的・科学的に理解し、運動の特性に応じた技能を習得する。 (２) 運動及び健康・安全について、自他の課題を発見し、課題解決の方法を考え、実践する。 (３) 運動の楽しさや喜びを味わうことができ、健康・安全についての学習を主体的に取り組んでいる。			
授業方法	実技、講義		
○実技：誰もが安心・安全に取り組める方法で、目標に向けて練習を重ねる。 ○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期		2 学期	3 学期
○オリエンテーション ○新体力テスト ○陸上競技（ハードル走） ○水泳		○球技（バドミントン） ○球技（マット運動） ○球技（ソフトボール・卓球） ○武道（剣道）	○陸上競技（長距離走） ○ダンス (通年) ○保健分野／体育理論
休業中	規則正しく生活する。		
みなさんへのメッセージ	保健体育は、体育実技だけではなく、保健分野も学習し、体のことや環境のこと、感染症のことなどを学習します。生涯にわたって健康な生活ができるように、一緒にがんばりましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能		思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力
・ 定期テスト（３回） ・ 小テスト（単元ごと） ・ 実技レポート		・ 実技レポート ・ 小テスト（単元ごと） ・ 授業での話し合い活動 ・ 定期テスト（３回）	・ 授業での意見発表や様子 ・ 小テスト（単元ごと） ・ 授業のノート記入 ・ 定期テスト（３回）
授業・評価についての留意事項	実技教科のため、授業には積極的に参加しましょう。苦手意識がある人も多いと思いますが、他者と評価するのではなく、自分がどれだけ成長したかを評価します。 また、定期的にワークの提出を求めます。これも評価（主体的に学習に取り組む力）に加えます。欠席者は授業者や友だちに授業の内容を確認するようにしましょう。		
使用教材	新版中学校保健体育（大日本図書） 中学体育実技（学研）、 中学保体資料ノート（正進社）		

授業科目名	技術	対象	3 年生
担当教員	野元 将央	受講教室	技術室
週当たり時数	0.5（年間 17.5 時間）		
到達目標			
（1）生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付ける。 （2）生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し表現するなど課題を解決する力を養う。 （3）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、実験、映像資料を用いて学習活動を行う			
○演習：プログラミングを通して情報の技術についての知識と基礎的な技能の習得に取り組む			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○オリエンテーション 技術の見方考え方 ○情報の技術 ・生活や社会を支える情報 ・身の回りにある情報技術 ○情報とコンピュータ ・コンピュータの構成 ・コンピュータの機能	○製作物の設計と製作 ・製作の目的 ・製作品の決定と構想の検討 ・構想のまとめ ・製作 ・製作における評価と検討	○情報に関する技術 ・ネットワークの仕組み ・情報通信ネットワークの利用と情報セキュリティー ・プログラムによる計測・制御 ○3 年間の学習のまとめ	
休業中	・自由研究または製作（夏季・冬季休業）→生活を工夫し創造する資質能力の育成		
みなさんへのメッセージ	生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ持続可能な社会をつくるために授業で生活を工夫し、創造する知識や技能を身に付けていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト ・ワークシート ・製作品	・定期テスト ・課題レポート ・製作品	・定期テスト ・ポートレート ・レポート ・学習発表	
授業・評価についての留意事項	技術に関する原理・法則、基礎的な技術の仕組みを理解するための課題を設定し、課題解決に向けた製作活動（知識習得、構想、課題解決活動、まとめ）といった学習活動全般を通して評価を行う。		
使用教材	ノート（各自で用意）、ワークシート（授業で配布）		

授業科目名	家庭科（A 家族・家庭生活 C 消費生活）	対象	3 年生
担当教員	遠山久美子	受講教室	調理室・被服室・3A 教室
週当たり時数	0.5（年間 17.5 時間）		
到達目標			
(4) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境について生活の自立に向けて理解し、技能を身につける。			
(5) 生活の中から問題を見だし、これからの生活を展望して課題を解決する能力を養う。			
(6) 自分と家族・家庭生活と地域との関わりを考え、家族とともによりよい生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する			
○実習：幼児の心を豊かにする小物作りを行う			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
A 家族・家庭生活 2. 幼児の生活と家族 幼児のころと今の自分 幼児の体の発達・心の発達 発達にとってのおとなの役割 幼児の心を豊かにする小物作り	幼児の遊びが必要なわけ 遊びを支える環境 3. 幼児とのかかわり ふれあい体験の前に ふれあい体験・ふれあい体験は 幼児からの贈り物 子供の成長と地域 持続可能な家庭生活をめざして	C 消費生活・環境 家庭生活における収入と支出 いろいろな購入方法 購入前に知っておくこと・売買契約 消費行動が社会に与える影響 世界の国々と連帯した持続可能な生活の創造へ 3年間のふりかえり	
休業中	・ 家庭生活上で仕事を手伝う。		
みなさんへのメッセージ	食べて、着て、寝て、家族と暮らしていること、成長している自分など、ふだんは当たり前すぎて、自分の家庭生活をふりかえることはあまりないかもしれません。知識や技能に正解はあっても、それを生活で自分がどう考え、使うのか、正解は自分が興味を向けて見つけていくことです。予習や復習は日々の生活であり、授業を通して深めていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・ 定期テスト（3 回）	・ 製作物 ・ 課題レポート ・ 定期テスト（3 回）	・ 授業での意見発表や内容 ・ 授業のノート記入 ・ 定期テスト（3 回）	
授業・評価についての留意事項	ワークの提出をする場合もある。これも評価（主体的に学習に取り組む力）に加える。欠席者は授業者に必ず授業の内容を確認すること。		
使用教材	家庭科総合ノート（明治図書）		

授業科目名	英語	対象	3 年生
担当教員	遠山久美子	受講教室	3 A 教室・学習室 A
週当たり時数	4（年間 1 4 0 時間）		
到達目標			
（1）外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 （2）コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 （3）外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、デジタル教科書、パワーポイント、映像など様々な資料を用いて説明する			
○演習：デジタル教科書を活用する。実際のスピーチを聞いたり、互いに英語で話し合ったりする			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期		2 学期	
Unit 0 Discover a New Side of Classmates Unit 1 What is special about Japanese pop culture? Unit 2 How do you choose your clothes? Unit 3 How can we save animals ? S.A : Discover Japan Let's Read 1 A Mother's Lullaby		Unit 4 How can we help each other? Unit 5 What makes a good leader? Stage Activity 2 My activity report. Unit 6 What does it mean to be a global citizen?	
		3 学期	
		Stage Activity 3 Let's Have a Mini Debate. Let's Read 2 Power Your Future Let's Read 3 Coloring Outside the Lines. 入試対策問題	
休業中	・ワーク		
みなさんへのメッセージ	英語は教科である前に「言語」です。自分の思いや考え、事実を伝える手段の 1 つなのです。また、英語の教科では、「積み木」のように学習したことを積み重ねていくことが大事になってきます。単語が書けると文が書けるのです。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能		思考・判断・表現力	
・単語テスト・長文読解小テスト ・リスニングテスト ・定期テスト		・授業での音読、発表 ・インタビューテスト ・プレゼンテーション ・定期テスト	
		主体的に学習に取り組む力	
・発表 ・インタビューテスト ・提出物			
授業・評価についての留意事項	授業を一番大事にします！積極的に発表し、発音や音読をくり返すことで英語がインプットされていきます。予習で単語の意味を調べ、授業前に教科書の長文を読解して授業に臨みましょう。復習では単語や英文を書いて理解を深めましょう。英語で即興に表現する活動もします。意欲的にペア&スピーキング練習をし、表現活動で力を伸ばしましょう。ALT の先生とも会話し、コミュニケーション力を高めましょう。		
使用教材	New Horizon3（東京書籍）、ノート、ファイル、ワーク		